



25 加藤藤昇斎

《鳳凰文竹製花瓶》一点

昭和三年（一九二八）

竹

高六〇・五 径四〇・〇

昭和の大札に際して三重県津市より献上された竹籠製の花瓶で、献上時の作品名は「竹製花生」と記される。本作は、銅器花瓶の形を竹籠に写したもので、胴部表面は六面に区分けしてそれぞれに鳳凰の図様を編み出し、首の部分には桐文が唐草風にアレンジされて配されている。これらの文様は着色した竹ひごを交えて、細やかな網代により表しており、細部も工夫した編み方で装飾が尽くされている。高台内に「藤昇斎謹製之」の刻銘がある。作者の加藤藤昇斎について詳細は不明だが、津市の竹工芸の名工であったと考えられ、大正の大札の折にも津市からの献上品である《御所車花生》を藤昇斎が製作したことが本作の献上願に記されている。津市は江戸時代より城下町、宿場町として栄え、伝統産業の一つとして竹工芸も発展し、唐物風の花籠や茶道具が作られていたことが知られる。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

大札 ― 慶祝のかたち

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 85

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 黒川廣子

発行 公益財団法人 菊葉文化協会

令和元年九月二十一日発行

©2019, The Museum of the Imperial Collections, Sannomaru Shozokan